

京町家の暮らしと町並みを守る

—リノベーションで叶える歴史文化の継承—

このコーナーでは、京都のまちづくりに取り組む企業・団体をご紹介します。今回は、長年賛助団体として当財団の運営にご協力いただき、また、京町家の住宅性能を高める改修を行いながら、京都の趣ある町並みを守っていらっしゃる『京ぐらし』ネットワークです。事務局の水嶋弘明さんと宮原厚子さんにお話をうかがいました。



宮原厚子さん(左) 水嶋弘明さん(右)

趣ある町並みとお客様の暮らしの調和を目指して

『京ぐらし』ネットワークは、地元工務店・不動産業者・設計事務所・協力メーカーなどから成る組織です。各業種が連携して一つの住宅を売買から設計・施工、アフターメンテナンスまでトータルサポートしています。当ネットワークを立ち上げた頃、京都市が新景観政策を実施しました。古都京都らしい町並み形成に向けた取組が全市的に始まり、個

人住宅の外観にも町並みとの調和が求められるようになったことで、一体どのように住宅を維持管理していけばよいか悩まれる方もいらっしゃいました。そこで、各業種のプロが集結する当ネットワークならば、お客様の暮らしをより快適にするための選択の幅を広げると同時に、京都の町並みに溶け込む外観デザインを実現させることができると考えました。

京町家を安心して住み継ぐために

京都の気候は、夏は蒸し暑く、冬は底冷えする寒さで過ごしくいといわれます。京町家は風の通り道が考慮されており、この土地の厳しい夏を乗り切るのに向いている点では元祖エコ住宅といえるでしょう。一方で、昔ながらの京町家は防寒面では万全とはいいがたく、また、地震の際は、建物の状態によっては耐震性能に不安があるでしょう。『京ぐらし』ネットワークは、住む人が末永く健康に暮らすためのお手伝いがしたいという思いが原点にあるので、断熱と耐震にこだわったリノベーションに特に力を入れています。

断熱材をきちんと施工すれば冬あたたかく家計にもやさしい省エネ住宅に生まれ変わりますし、建物の状態やライフスタイルに応じた耐震設計・施工を行えば現代の基準に合った安全性を確保できます。このように、私たちは京町家を安心して住み継ぐためのさまざまなご提案をしています。



京町家を快適な住まいとして蘇らせます

京都人が知らない京都のすごさ！

『京ぐらし』ネットワークでは、京都市の補助事業の申請書類作成サポートも行っています。京都だけで仕事していると気付かないことですが、他府県の方からすれば「まちの匠の知恵を活かした京都型耐震リフォーム支援事業」のような住宅耐震リフォーム事業を、こんなに手厚くやっている行政はないそうです。京都のまちと人を守り、まちの魅力や次世代へ受け継ぐためにも重要な事業です。また、

近年、京都外の人々の京町家への関心が高まっているのを感じます。京都のよさ・すごさというのは、外の人の方がよく知っていらっしゃるのかもしれませんが。京町家を含めた趣ある町並みは京都の宝です。これからも当ネットワークは京町家での快適な暮らしと、歴史文化の継承を叶えるべく歩んでいきたいと考えております。

写真提供：『京ぐらし』ネットワーク

平成28年度賛助会員募集中！

入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください

※平成28年5月末現在

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町 83 番地の 1
(河原町五条下る東側) ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL : 075-354-8701 FAX : 075-354-8704
E-mail : machi.info@hitomachi-kyoto.jp
http://kyoto-machisen.jp

センターへお越しの際は
公共交通機関を
ご利用ください。



京都市景観・まちづくりセンターHP



公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

京まち工房 75

パートナーシップで
進めるまちづくり



特集
京町家まちづくりファンド 感謝祭
『あなたが支える京町家』
(P2-3)



- 下木屋町地区のまちづくり
～3本の柱で地域をデザインする下木屋町地区の取組～ 4
- 「京のまちかど」案内ボランティアさん紹介 5
まちセンからのお知らせ
- 地域まちづくり・京町家の専門家紹介 6
- 私と京都 7
スタッフのつぶやき



特集 京町家まちづくりファンド 感謝祭 事業報告会 トークイベント 寄附者表彰式 ミニコンサート

あなたが支える京町家

日時 平成28年3月19日(土) 主催 公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター
場所 新島会館本館2階 大ホール 共催 京都市都市計画局まち再生・創造推進室

京町家まちづくりファンドは、京都を、そして京町家を愛する皆様のご支援によって、京町家を再生し、京都らしい町並みを保全するため、(公財)京都市景観・まちづくりセンターが平成17年9月に設立した基金です。

この度、10年間の取組実績を踏まえ、更なる活動の充実を図るため、感謝祭を開催しました。歴史的な建築様式を取り入れた新島会館本館を会場とし、寄附者の皆様これまでの事業の成果報告を行うとともに、表彰により感謝の意を表しました。また、トークイベントやミニコンサートによる和やかな雰囲気の中で、先人の深い美意識で守り引き継がれてきた京町家を未来へつなぐために、今、私たちにできることを考えました。



■ 事業報告会

京町家が毎年約1.6%の割合で減少している現状のなかで、京町家まちづくりファンド事業の直近の成果や、これまで10年間の取組のなかでファンドを活用され建築当初の姿に改修された76軒の京町家のなかから、空き家の解消となった事例や京都の文化を体感できる豊かな暮らしの様子、景観重要建造物や国登録有形文化財などの公的な指定の状況などをご紹介します。

ファンドを活用して京町家を再生された所有者の方々にもご参加いただき、今後は改修助成を受けられた所有者のお力もお借りして、ファンド事業を盛り上げ、皆で支え合う輪を広げていくことが重要であることを共有しました。



■ 寄附者表彰式

平成26年度と平成27年度の京町家まちづくりファンドに格別にご寄附いただいた皆様へ感謝状を贈呈いたしました。

また、寄附者の皆様を代表して、平成22年度から7年間、ファンドの寄附付き商品「井筒ハッ橋」を通じて、京町家の保全・再生に多大なる貢献をいただいている株式会社 井筒ハッ橋本舗 代表取締役社長 杉野善彦様から、京町家と京都らしい町並みの継承に対する思いについて、お話しいただきました。



ご参加の方に、「井筒ハッ橋」もご提供いただきました。

■ 会場で新たにファンド事業に賛同いただきました

寄附付き商品の提供にご協力いただけるとなった下記の企業の皆様から、ご挨拶をいただきました。

(株)京町家スイート利休 (有)鈴木モーターズ (株)フージャスコーポレーション

寄附付き商品については、改めてご紹介させていただきます。

■ 歓談タイム

日本酒を片手に名刺が交換されるなど、ファンドの寄附者、助成を受けられた方、関係者との交流が一層深まりました。



■ トークイベント「日本酒の歴史と洛中の暮らし」

佐々木酒造株式会社 代表取締役 佐々木 晃 氏

ゲストとして、京都・洛中に残る造り酒屋「佐々木酒造株式会社」の代表取締役 佐々木晃氏をお招きし、お酒造りを通じた地域との関わりについて、お話しいただきました。

明治26年には洛中に131軒あった酒蔵が次々にマンションや駐車場に建て変わるなかで、聚楽第の跡地に建つ明治期の酒蔵を大切にされている様子や、京都市産業技術研究所と共同開発により高品質で新しいお酒造りに挑戦されている様子をご紹介します。また、日本酒だけが季節と密接に関わっており、京料理の味に合う酒造りを通じて、食のなかで四季を楽しめることが日本酒の最大の特徴であることを学びました。

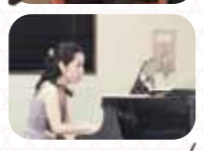


ご参加の方に、日本酒を振る舞っていただきました。

■ ミニコンサート

ソプラノ 永野 歌織 氏 ピアノ 柴原 日菜子 氏

京町家から連想される季節、文化、美しさ、暮らしといったキーワードから選曲された全8曲をご披露いただきました。華やかな曲や日本人に馴染みのある曲、クラシックなど、心温まるアフタヌーンコンサートを楽しみました。



後日、テレビでも報道されました。



京都新聞 朝刊 (平成28年3月20日)

NHK京都放送局 (関西地区で放映)

■ ご寄附をいただいた皆様へのメッセージ

日本の中の京町家、その歴史と価値について



京町家まちづくりファンド委員会

委員長 大場 修 (京都府立大学大学院教授)

京町家は、中世から近世にかけて日本各地の町家のモデルとなってきました。京町家は日本を代表する都市住宅だといってしまうことはありません。京町家は木造で、千年にわたりその基本的な形を今日まで受け継いでいます。このような都市住宅は世界に類を見ません。その意味で、京町家は世界遺産的な価値を持っています。都市住宅を登録した世界遺産はまだありませんので、注目されることと思います。

ファンドは年間数軒の京町家を丁寧に改修しながら再生していく事業で、京町家の歴史的価値に磨きをかけることで、京都の文化的価値を更に高める取組です。今度ともファンドの趣旨にご賛同いただき、皆様のご支援をよろしくお祈りします。

京都の宝である京町家を守るために



京都市景観・まちづくりセンター

理事長 青山 吉隆 (京大名誉教授)

京町家の保全・再生を通じて京都にふさわしいアメニティを形成していくには、皆様からのご寄附と併せて、京町家の所有者の方々の継承に対するご理解、ご決断が不可欠です。その意味で、ファンド事業で支援した76軒の京町家はモデルケースであり、規範を示す意義を担っています。これからは、ファンドによる京町家の改修事例が、お手本として京都市内にあまねく知れ渡っていく状況になることが求められます。

京町家を大切に守っている皆様やそれを支えていただいている皆様のひとかたならぬご尽力に、深い感謝と敬意を示すとともに、本日の感謝祭をきっかけとして、京町家の保全・再生のために、京都だけでなく日本全国、世界中の方々からご支援をいただけるよう、支援の輪が広がっていくことを祈念します。

■ まちづくりファンド設立10年の歩み

京町家の改修助成件数(累計)



寄附付き商品(井筒ハッ橋、京町家まちづくりバナナ、書籍「京町家の再生」)販売開始



京町家まちづくりファンド設立

第1回オーナーズサロン開催

第1回京町家まちづくりファンド事業報告会 in 成徳

第2回京町家まちづくりファンド事業報告会 in 島原

第3回京町家まちづくりファンド事業報告会 in 西陣

第3回京町家まちづくりファンドの取組が「日本不動産学会業績賞」受賞

京町家まちづくり散歩2009【明倫編】

京町家まちづくり散歩2010春【五条坂編】

京町家まちづくり散歩2011春

京町家まちづくり散歩2011秋【出水編】

町家で過ごす夏の夕べ〜五感を感じる涼〜 in 四條京町家

京町家まちづくり散歩2011夏〜京の四季を味わおう〜 in 四條京町家

京町家まちづくり散歩2011春

PR活動 in 第10回京都・西陣伝統文化祭「千両ヶ辻」

PR活動 in 第2回西陣の朝市マルシェ

京町家まちづくりファンド8年間の記録〜

京町家まちづくりファンド事業報告会「未来へつなごう京町家」

京町家まちづくりファンド・サロン in 京都&三原邸

京町家まちづくりファンド・サロン

京町家東洋シンポジウム「景色の継承」

京町家まちづくりファンド事業報告会・京町家見学会

京町家まちづくりファンド・サロン

京町家まちづくりファンド感謝祭「あなたが支える京町家」

京町家東洋シンポジウム「あなたと生きる京町家」

京町家まちづくりファンド・サロン in be 京都&三原邸

これまでの改修案件をまとめた記録集が完成しました!



平成26・27年度 ご寄附いただいた皆様

皆様のご支援に深く感謝申し上げます。

個人 荒井孝、井上 譲二、大宮 裕治、奥茂 譲仁、岡本 秀巳、小幡 真次、木崎勝夫、木田 恭平、木股博一、木村 忠紀、木本 剛、砂原 喜之、高川 祐子、高橋 ありす、辻 勇治、徳光 都妃子、中井 邦子、生川 慶一郎、西村 孝平、布垣 友義、林 亨子、細田 早代、町田 茂久、山内 圭、望月 幸夫、吉田 光一、Mr.&Mrs Frans and Lynette kapiteijn、NIGEL BALDWIN、以上28名、ご芳名の非公開希望7名を合わせて35名の皆様 (五十音順、敬省略)

法人・団体 井筒ハッ橋本舗(株)、京都クレジットサービス(株)、(学)京都建築学園 京都建築専門学校、京都青果合同(株)、(株)さんけい、(株)渡月橋、(株)ホリバコミュニティ、(株)都ハウジング、The Deepest Kyoto Tour 実行委員会、(NPO) 四條京町家、以上10法人・団体 (五十音順、敬省略)

税額控除の適用を受けることができます

当財団に対する寄附金は、公益財団法人に対する寄附として、税の減免措置を受けることができます。税額控除とご寄附の方法について、詳しくはホームページをご覧ください。

京町家まちづくりファンド

検索

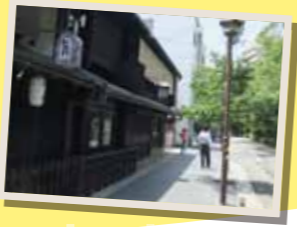
http://kyoto-machisen.jp/partner/detail/donation.html



時とともに食文化に彩りを添えるまち、京都・下木屋町

下木屋町地区のまちづくり

～3本の柱で地域をデザインする下木屋町地区の取組～



下木屋町地区（下京区永松学区）では、これからのまちづくりを考えたため、各町内の代表、木屋町会*1、高瀬川保勝会*2、永松自治連合会会長が発起人となり、「下木屋町まちづくり協議会」を立ち上げました。平成25年秋の協議会の発足から、地区計画や自主ルールなどのまちづくりの基本方針をまとめた2年半の取組を紹介します。

下木屋町地区はこんなまち

南北を四条通と五条通、東西を鴨川と河原町通に挟まれた、高瀬川周辺の地域です。永松学区の一部で、13町で構成されています。

下木屋町地区は、江戸時代初期、鴨川の中洲に茶店や見世物小屋が集まってきたのが始まりで、その後、鴨川の納涼床の出現や、高瀬川の水運によって飲食店や宿屋が立ち並び、飲食街として栄えてきました。四季を感じられる自然環境、落ち着いた住環境に加え、現在では、老舗の料亭、大型の飲食店、旅館や町家を改修した新しい店舗などが軒を連ねるなど、伝統の中に革新的な表情を見せるたたずまいが融合し、京都らしい風情と品格のあるまちを形成しています。

法を活用したまちづくりから取り組みました

下木屋町地区では、落ち着いた職住環境を未来に引き継いでいくために、平成25年11月に「下木屋町まちづくり協議会」を結成し、建築用途を制限できる「地区計画」制度を活用した取組を始めました。協議会では、京都市、専門家、まちセンと協力し、活発な議論を交わしながら、平成26年4月に地域の目指す将来を描いた「下木屋町まちづくりビジョン—時とともに食文化に彩りを添えるまち 京都・下木屋町—」を策定し、平成27年6月に、風俗営業などを規制した下木屋町地区 地区計画の要望書を京都市に提出、平成28年3月に条例化されました。

自主的なまちづくりのルールを決めました

地区計画策定の段階から、地域で目指すまちの将来像の実現に向けて、地区計画制度だけでは規制しきれない点が浮かび上がってきたことから、住民や事業者が自主的に地域の安心・安全を守っていくためのルールも必要ではないかという意見が出てきました。

毎月開催される協議会で地域の課題を再確認しながら、現在の住民の方だけでなく、新たに地域に住まう人や事業者の方にも協力を呼び掛ける自主的なまちづくりルールとして「まちづくり心得」を定めました。

これからのに向けて

「下木屋町まち憲章」*3を軸に、「地区計画」、「まちづくり心得」で構成される3種類のルールを「下木屋町のルール」として冊子にまとめ、地区計画の条例化に合わせ、地域へ配布を行いました。

下木屋町地区では、これからのまちづくりの基本方針として、このルールをまちの維持・発展・継承へ向けて活用し、魅力ある「下木屋町ならではのまちづくり」の発信を続けていきます。

*1 事業者で構成される団体
*2 市内の景勝地の美化、魅力向上のために、地域住民が自主的に組織し活動している団体の一つ
*3 まちづくりビジョンを、まちづくりの基本目標としてわかりやすく表現したものの



「まちづくりビジョン」の実現に向け、「下木屋町のルール」をこれからのまちづくりの新たなスタートと考え、地域の皆様により深く理解していただくとともに、地域の皆様が主体となってこれを守り運用していきます。そして、京都を代表する風情と品格のある繁華街として「下木屋町ブランド」の価値を一層高めていきたいと思えます。



下木屋町まちづくり協議会 田中 博 会長

▶地区計画の内容について、詳しくは京都市 HP 地区計画決定状況一覧より「下木屋町地区」をご覧ください。

下木屋町地区地区計画

展示施設

「京のまちかど」案内ボランティアさん紹介

Vol.8

小寺 信義 さん



このコーナーでは、ひと・まち交流館京都の1階にある展示施設「京のまちかど」で、展示案内をされているボランティアの皆さんをご紹介します！今回は、展示案内ボランティア2期生の小寺信義さんにお話を伺いました。



Q 小寺さんのお出身はどちらですか？
神戸です。京都に住んで50年近くになります。

Q 展示案内ボランティアを始められたきっかけは？
10年ほど前に、偶然ボランティアの募集チラシを手にしたことがきっかけです。研修内容が充実していて、興味をひかれました。元々古い町並みが好きで、研修の受講や展示案内を通して京都に詳しくなれたらいいなと思いました。

Q 京都でお気に入りの場所は？
伏見の古い町並みが大好きです。戦国時代を生き天下統一

をとげた豊臣秀吉は、その晩年に伏見城を築城し、伏見の地は天下の中心ともいえる一大拠点となりました。京都市内の碁盤の目をお手本に、現在まで残るまちの原型が形づくられたのもこの頃です。同時期に、伏見は城下町としても大きく発展しました。全国各地から集められた大名の屋敷がたくさんあったわけですが、伏見を歩くと今でもその名残を随所で見ることができますよ。

Q 展示案内ボランティアとして気を付けていることは？
見学者が京都で訪れた場所、これから訪れようとしている場所と関連するお話をするなど、興味を持ってもらえるように心掛けています。乗ってくるとついつい話を脱線してしまいがちなので(笑)、受けた質問を外さないように気を付けています。

まちセンからのお知らせ



「京のまちかど」で展示案内ボランティアさんのお話を聞くには？

「ひと・まち交流館 京都」1階の展示施設「京のまちかど」*で、展示案内ボランティアさんが活動している日時を、ホームページでご確認いただけるのはご存知ですか？ 皆さんボランティア歴が長く、京都にまつわる知識が豊富です。京都が大好きで、来館された方に京都のおもしろさを伝えたい！という方ばかりですので、ホームページをチェックして、ボランティアさんがいる日を狙って行くのも楽しいですよ。とっておきの京都情報が聞ける……かも知れません。

▼ 展示案内ボランティア活動日時はこちらをチェック <http://machi.hitomachi-kyoto.jp/machikado.html>

展示見学に際して予約は不要ですが、団体見学で展示案内ボランティアを希望する場合は、希望日の1ヶ月前までに京都市景観・まちづくりセンターへご連絡ください。

*京のまちかど……平安時代から現代までの京都のまちづくりの流れや町並みの様子、模型、ビデオ、パネルなどを活用してわかりやすく展示している施設です。

新しいまちセンホームページをご覧ください！

今春リニューアルしたまちセンホームページはもうご覧いただけましたか？ 今回のリニューアルでは、より分かりやすく・より使いやすさを目指し、「新しい・楽しい・ためになる」景観・まちづくりの情報をお伝えしていきたいと思っております。ぜひご覧ください！



景観・まちづくりセンター

検索

<http://kyoto-machisen.jp>



時代の移ろいを感じる“改修”事情

当財団は多くの専門家の方々のご協力のもと、地域のまちづくりや京町家の保全・再生に関わる事業を行っています。このコーナーでは、豊富な経験や知識、また熱い思いをもって京都のまちに関わっておられる専門家の方々をご紹介します！

今回はこの方！



狩野 文博氏

(京都府建築工業協同組合・理事)

当財団の立上げ当初から様々な事業にご協力いただき、現在も「京町家専門相談員」やセミナーなど、京町家に関する事業全般で、お力添えいただいています。



当財団の相談以外では、どのようなお仕事を？

地元である伏見で、工務店を営んでいます。伏見は秀吉・家康の時代から日本の首都としての城下町、港町、宿場町として栄え、さまざまな文化が根付いた歴史ある地域です。そのため建物も多様で、特に旧市街地や旧街道沿いでは宿場町の町家、酒蔵、邸宅などの伝統的な建物が多く残されています。一方で、新興地でもあるため近代的な建物が並びエリアもあり、仕事でも幅広い様式の建築を扱うことが多く、とても興味深いです。



京町家に関する相談は多いですか？

仕事では、町家のみ扱うわけではありませんが、皆さんの関心の変化は感じます。私の親世代の頃は、京町家などの昔ながらの建物より洋風の方が“お洒落”、“よい家”という感覚で、土壁を隠して大壁の洋室へ改装が持てはやされたようです。しかし今は、親世代とは逆で、それらを取り払い、元の柱や土壁を見せる（真壁にする）ことで町家の風情を取り戻したい、というご相談が増えています。国内外から「京都」が目目されているのは、「日本のどこでも同じ風景」ではなく、京町家がつくる町並みや文化が継承されているからだと思えます。さらに広まってほしいですね。

伝統的な建物の改修について

伝統的な建物に限りませんが、まずは建物を健全な状態にすることが大事です。建物を預かる身として、お施主さんにも必ずご理解いただいています。また町家は暮らしの場なので、「住み継いでもらいやすい」改修を心掛けています。町家のよさを活かしつつも、必要に応じて現代的な設備や工法を取り入れて住み継いでもらうことも、継承の一つの形だと思えます。「よしやまの町家®」は、伝統技術で改修された町家と現代的な住まいに改修された町家、両方が見学できますので、ぜひお越しください。

※京都府建築工業協同組合が、住まいとしての京町家の再生促進と伝統的な木造建築技術者の育成を目的として再生した町家（上京区段屋町通下立売下丸屋町）。要電話予約（075-802-1281）。



町家調査時の様子。小さな痕跡から、建築当初の姿を探ります。

その他、大事にされていることはなんですか？

建物は「出来上がったときがはじまり」ですから、人間関係もきちんと築けるように努めています。大工はお施主さんにとって家族くらい近い存在になります。工事中は鍵を預かることもありますし、電話番号を任されたこともありました。一軒一軒が自分の子どものような感覚なので、昔の「出入りの大工」のように、維持管理の面でも、頼ってもらえるようにしたいですね。

私と京都



スーク創生事務所
大島 祥子

価値の再発見・再創造が可能なまち、京都。

私が事務局をつとめる「都市居住推進研究会（都住研）」では、設立20年を機に京都の路地を改めて見直そうという活動を進めています。20年前は再建築不可の路地奥や接道条件を満たさない宅地での建物の更新が困難なことから、安心・安全の面での課題が問題視されていて、当研究会もこの課題解決に向けた提言活動を行ってきました。その後は連担建築物設計制度の創設や京都市の防災まちづくりの推進等により、防災性を向上させる改善が加えられてきました。ところが近年は、建物の更新が困難な故に歴史的な町並みが連担して今なおあり続けている貴重なスポットとして、多くの人の関心を惹きつける場となってきています。

20周年活動の一つに「路地21選」（活動が長引いて21周年にかかったので…）の取組を行いました。路地といっても特徴はさまざま、都住研メンバーにより魅力的な路地を21ヶ所選び、その中のいくつかの路地を訪問しました。大通りから一步入っただけなのに静かな環境。所狭しと並んだ鉢植えと土の香り。等間隔の防火バケツ。町内行事を呼びかけるチラシ。車が通らない道の安心感。路地のマネジメントに関する話も聞かせていただきました。

顔が見える関係を維持する工夫、町並みを維持する工夫、防犯、日頃の防火、そして近年心配される防災の取組、大家さんとの信頼関係を続ける工夫、長屋を舞台にした若い職人さんが羽ばたく物語。そして、長く集住しているが故の難しい人間関係のお話も。

近年は路地奥の商店や宿泊施設などが「京都らしい」と人気を集めています。しかし、それを建物や通路による空間だけで捉えては「仏作って魂入れず」。大事なことを見落としてしまいます。路地はまちの成り立ちの歴史を示し、集住する知恵が今なお継承されているところも多く、互いに安心・安全を気遣いあう「お互い様」が必要な住まい。また近年は高騰しがちな都市居住のコストを抑えながら暮らせ、多様性を担保できる居住の場としての機能。もしかして、都市の未来の姿を考えるにあたり、路地は私たちが考える以上に宝の山かもしれない。かつて、京町家の価値が再発見・再創造されたように、京都の都心部にちょこんと存在している路地も、再発見・再創造されるタイミングが来ている気がしてなりません。その一助に、都住研も寄与したいと考えています。



スタッフのつぶやき！

人工知能と京町家

スタッフK.Y.



世界最強の囲碁棋士と人工知能を搭載したコンピューター（AI）が対局した。結果は、AIの圧勝だったそうだ。AIが人間を超える日も、そう遠くないらしい。酒宴の席でそんな話を聞いた。

AIの登場で、便利さや物質的豊かさを追求する人間の価値観が、劇的に変わると議論が続く。どうやら、

最終的に人間の価値観は、伝統や文化、人間の叡智や技で造られたものへとシフトしていくらしい。

今、わたしは、叡智と技の結晶である京町家の保全・再生の仕事に携わっている。伝統や文化を守り、次世代に受け継ぎ・創造するこの仕事、実は、時代の最先端を走っているのではなからうかと自負している。